

慶応三年七月二十四日より慶応三年七月廿七日まで

P8310702 right

(御下坂)御下坂夕七つ半時過、御着城大手御門前にて、御目見、御着坂恐悦御城入り謁御用多を以断申上る

廿五日子 晴

暖度九十二度(撰氏三十三度)

第八時仏公使、水師提督等拝謁有し、第十二時供揃にて同軍艦へ被為 成、第七時前登

(転役)城の処被為 召外国奉行兼帯御序無しに付、御□うら召出旨、芙蓉間、猶御替席、板倉

伊賀守殿請渡し、十時前御同人英公使方へ為談す(崎陽殺害一件)御出に付、御随従、御用召

吹聴、竹内小笠原へ奉札申遣す、従者へ聊(いささ)か賀銀を遣す、山口(駿)来り明日英御談判仏登

城等の儀打合せ有し、三輪(金)を伴へり

廿六日丑 晴

同八十九度(撰氏三十二度)

秋元但馬守より今般着□□鯛(五十四匹)、樽代(三方)使者より(里村誠一郎)巻々文、八朔賀肴(百疋)

樽代(三方)使者より同断

P8310702 left

贈り来る、第七時前登城無程賀州図書殿、英宿寺へ御越に付随従、猶□再談判

有し積り午時過、一旦帰舎、仏一行第十時登城有し、松平(隅州)より緋銅(\*)菓子入器(箱入)を贈

らる

且秋葉□、茂田□心願紹介の義、申来る、鳴海絞手綱を酬う、第六時頃、賀図両州

再度英館御引合戸川(□)設楽(岩)随従(土州札問の御使也)、右へ列席入本帰館

廿七日寅 晴

竹島(房)来る御用状等の儀談遣す、英公使外両第十一時登城引続第一時船頭外四人

登城相謁参用人列席客参□□食、第四時前退散、八つ時御供揃にて、御帰京

(御帰京)被随々(第四時半御挟箱出申し)、松平備前守より着賀使者(大林鉄吉)さし越、右使者より

青差(\*)巻貫文を出す、谷津

(勸四郎長崎支配向にて此般殺害一條で着坂せしもの)此度着坂御用筋にて面会を乞う、右は戸川

設楽の内へ可相越旨申達す

\*1:青差(あおざし)沢山の銭の穴に紺色の紐を通して結んだもの

\*2:緋銅(ひどう)純銅加工の伝統技法

( )内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【文字判読不可】は、文章の一部に汚れがある、虫食いにより文字が無い等です。